富良野

富良野支局
〒076-0032
富良野市若松町14番1
0167・23・2019
FAX23・2796

旭川支社
〒070-8720
旭川市4条通9丁目
旭川北洋ビル
報道　0166・21・2516
FAX21・2517
販売　21・2533
広告　21・2539

北海道新聞の
生活情報フリーペーパー
道新 ななかまど
旭川市内・近郊に17万部発行！

上富良野町民 噴火に備え怠らず

十勝岳 大正泥流100年

相次ぎ避難訓練、講演会

【上富良野】144人が犠牲になった1926年（大正15年）の十勝岳噴火による大正泥流発生から100年の節目にあたることや、十勝岳の活動状況を受け、町民らが防災講話を開いたり、突発的な避難訓練を行ったりするなど、有事の際に備える動きが広がっている。

「十勝岳の噴火により噴石が飛来する可能性があります。生徒は各ホームルーム教室に戻ってください」。8日午前11時35分ごろ、上富良野高で校内放送が鳴り響き、生徒たちは各教室に一度集まった後に体育館へ素早く避難。5分ほどで安否確認を終えた後、理科担当の教員が災害時の心構えについて、特別授業を行った。

同校によると、今回は初めて事前に通告せずに避難訓練を実施。同校2年生の大道瑚々さん(17)は「少し焦ったが、落ち着いて行動できた。家には飲み物しか置いていなかったので、非常食や暖を取る毛布など、備蓄品についても見直したい」と話した。

9月27日には大町地区の敬老会で、同町総務課基地調整・危機管理室で危機管理員を務める桜井友幸さんを講師に招いて防災講話を実施した。約40人が参加し、桜井さんは火山灰などの火山災害について、他地域での事例を写真で振り返りながら説明。町民らからの問い合わせの多かった高齢者等避難の定義についても「一定以上の年齢という概念ではなく、自力で避難できない人が対象になります」と解説した。

同地区住民会の水島雅夫会長は「住民の方に火山活動や対応について、正しい知識を身につけてもらいたかった」と狙いを話す。

このほか、町内中町地区の住民でつくる自主防災会では今年の5月に、町内のセントラルプラザで防災勉強会を実施。災害時の調理実演として、耐熱性のポリ袋に材料を入れて湯煎で調理し、お米を炊いたり、カレーのルーを作ったりしたほか、段ボールベッドで宿泊体験も行った。今冬には同地区住民会で、観光振興や自然保護だけでなく、防災にも取り組んでいる「十勝岳ジオパーク推進協議会」から講師を招き、十勝岳の活動状況について理解を深める勉強会の開催を計画している。（武内敦貴）



大町地区の敬老会の中で行われた防災講話＝9月27日

中町地区 住民会、冬季に火山活動の勉強会

復興までの歴史 後世に伝える

町教委とサークルが紙芝居

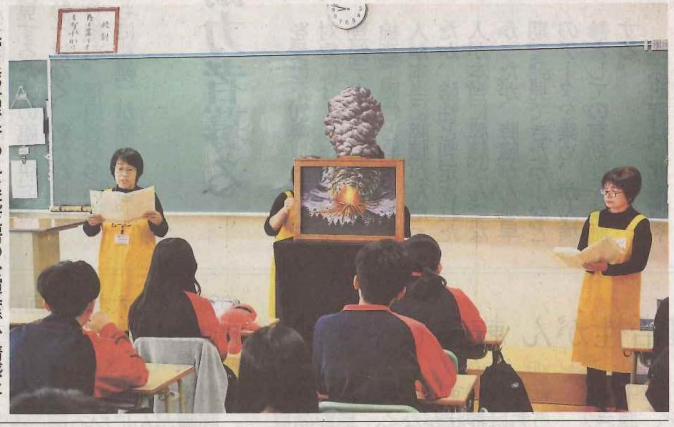
【上富良野】町教育委員会は本年度、1926年（大正15年）の十勝岳噴火に伴う大正泥流の発生から100年の節目にちなみ、町内のサークル「読みきかせ会ムーミン」（大野真智子代表）と協力し、町の歴史を振り返る紙芝居の上演会を町内の各学校で開いている。

噴火発生から復興まで至る歴史を次の世代に継承しようと企画。紙芝居は町の歴史を振り返る「十勝岳だいふんか　未来へつなげよう」で、ムーミンのメンバーは8日、上富良野高を訪れた。

1年生の教室では19人が参加。明治の開拓期の様子や大正泥流の被害、復興への道のりなどをメンバーが情感を込めて読み上げ、生徒たちは真剣な表情で見入っていた。

紙芝居を聞いた三浦晴さん(15)は「諦めずに復興を成し遂げたマチの人たちを尊敬した。とても勉強になりました」と話した。

町教委は「泥流発生から100年がたち、風化をさせないためにもこうした取り組みは必要。今後も続けていきたい」としている。（武内敦貴）



上富良野高で行われた紙芝居の公演会で、情感たっぷりに読み上げるムーミンのメンバーたち